

研究分野	資源調査	機関・部	水産総合研究所・漁場環境部
研究事業名	日本周辺国際魚類資源調査		
予算区分	受託研究((独)水産総合研究センター)		
研究実施期間	H13～		
担当者	田中 淳也・小泉 広明・今村 豊		
協力・分担関係	遠洋水産研究所		

〈目的〉

国連海洋法条約に基づき、公海を回遊しているマグロ類及びサメ類の科学的データを完備するための調査を行う。

〈試験研究方法〉

○漁獲状況調査

クロマグロ：次の漁場等で水揚げ伝票から漁獲月日、漁法、銘柄、体重等のデータを収集する。

日本海 新深浦町漁協岩崎支所、深浦漁協

津軽海峡 三厩村漁協

太平洋 尻労漁協、六ヶ所村海水漁協、八戸みなと漁協、(株)八戸魚市場

サメ類：八戸みなと漁協、(株)八戸魚市場にて漁獲月日、漁法、銘柄、体重等のデータを水揚げ伝票から収集する。

○生物測定調査

深浦漁協、三厩村漁協にて、漁獲状況調査に加え、1尾当たりの体重データ等を収集する。

〈結果の概要・要約〉

平成21年度の調査対象6箇所のクロマグロの漁獲量を図1に示した。調査対象6箇所全体では499トン(前年531トン)と前年の約94%だった。海域別としては、日本海では346トンと前年(283トン)の約1.2倍、津軽海峡では93トンと前年(124トン)の約75%、太平洋では60トンと前年(124トン)の約48%であった。

海域別月別漁獲量の推移を図2に示した。日本海では6月と9月、太平洋では6月にピークがあった。津軽海峡は、8月にピークがあった。

三厩村漁協における魚体測定の結果を図3に示した。魚体サイズは広い範囲に及び、尾叉長のモードは100cm台で、体重のモードは18kg台であった。

深浦漁協における体重測定の結果を図4に示した。体重のモードは4kg台だった。

八戸地区のサメ類漁獲量を図5に示した。漁獲量は、621トンと前年の464トンの約1.3倍であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

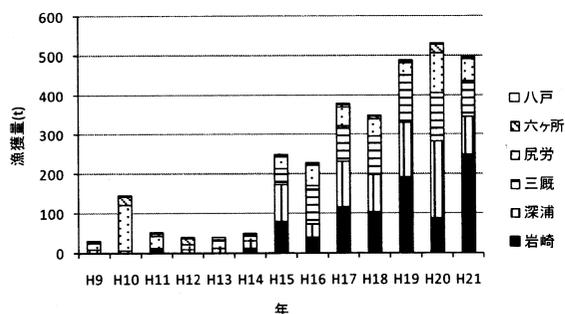


図1 地区別クロマグロ漁獲量の年別推移

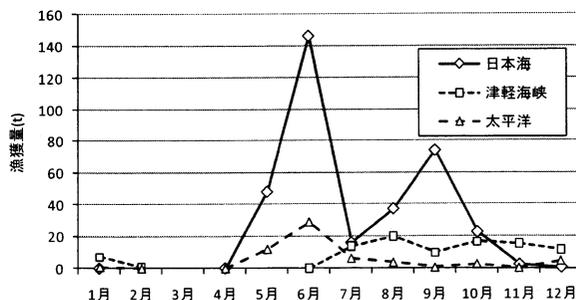


図2 海域別クロマグロ漁獲量の月別推移

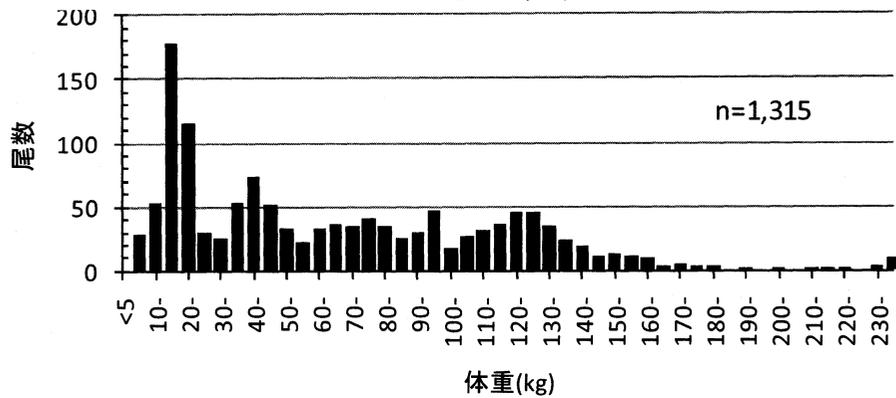
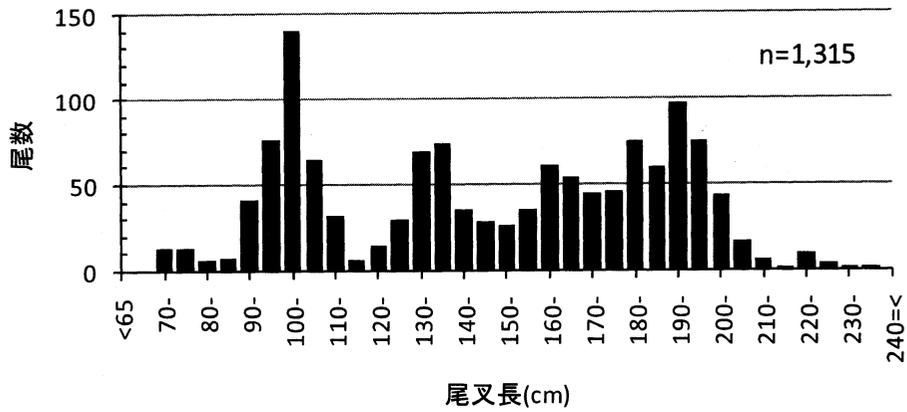


図3 三厩村漁協におけるクロマグロ漁獲物の組成(上：尾叉長、下：体重)

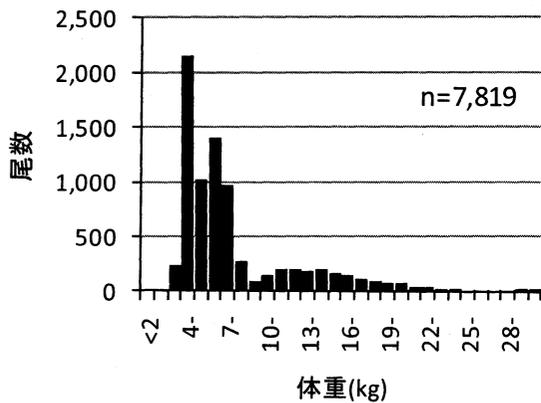


図4 深浦漁協におけるクロマグロ体重組成

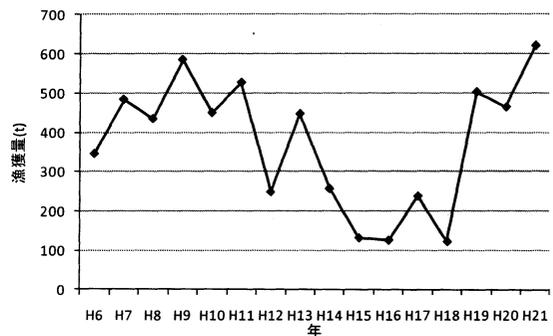


図5 八戸地区サメ類漁獲量の推移

〈今後の問題点〉

本県への来遊群の年級群解析から他道県のデータと比較検討したい。

〈次年度の具体的計画〉

クロマグロの調査対象地区として、小泊地区を追加する。調査内容は平成21年度と同様。

〈結果の発表・活用状況等〉

平成21年度日本周辺国際魚類資源調査委託事業報告会において報告。